

15 家庭教育支援に係る地域の教育力の活性化に関する調査研究

研究代表者 馬場 祐次郎（社会教育実践研究センター センター長）

① 研究の趣旨，ねらい

家庭教育支援に係る地域の教育力について、地域社会で取り組む家庭教育支援に係る活動等の実態を明らかにするとともに、地域の役割及び地域の教育力を活かした活動の在り方について調査研究を行い、家庭教育支援の一層の充実をめざした地域の教育力の活性化に資する。

② 研究成果の概要

20歳代以上の男女3,000人を対象に、子どもたちの教育における家庭・地域社会の役割及び家庭教育支援のための活動等に関する意識調査をインターネット調査により実施した。

また、地域の教育力を活かした家庭教育支援に関する先進的な活動について8カ所を抽出し、現地調査及び聞き取り調査を実施した。その結果の概要は次のとおりである。

- すべての人に、家庭教育の充実のために地域が積極的にかかわるべきだと思うかと聞いたところ、「関わるべきと思う」が79.1%、「関わるべきとは思わない」が20.9%となっている。
- 「家庭教育の充実のために地域が積極的に関わるべきだと思う」と回答した人に、家庭教育の充実のために地域が取り組むこととして、それぞれの項目についてどの程度関わるべきか聞いたところ、5割以上の人「積極的に関わるべき」と答えたのは、「社会のルールやマナーを守ることを教える」（57.5%）、「地域の文化・歴史等を大切にすることを育てる」（55.8%）、「自然を大切にすることを育てる」（53.3%）である。
- 地域の教育力を活かした家庭教育支援に係る活動へ「現在活動に参加していない人」に、今後活動に参加してみようと思うか聞いたところ、「参加してみようと思う」が54.4%、「参加してみようと思わない」が45.6%となっている。
- 「現在活動に参加していない人」へ「参加しようと思わない理由」について聞いたところ、「職場における時間的なゆとりがない」30.5%が最も多く、次いで「家庭における時間的なゆとりがない」24.4%となっている
- 家庭教育支援に係る「地域の教育力を活かした活動」の在り方として、「親子の交流機会」、「子どもたちの体験活動」の拡充と活動に参加していない「無関心層」に対する支援の必要性を示した。

- 家庭教育支援に係る「地域の教育力」の活性化と今後の方向性について、「家庭の年中行事の復活」、「家庭・地域の規範づくりの方法」「地域における子どもの放課後の世界の回復」の3点について提言した。

③中期目標との関連性

- 中期目標〔目標4〕社会教育分野での実践的な調査研究に関連するものである。特に、社会全体の教育力の向上として、身近な地域における家庭教育支援の基盤の形成等が求められる中、地域社会で取り組まれている家庭教育支援活動等の実態把握と、地域の役割及び地域の教育力を活かした活動の在り方の検討という視点から（1）社会教育の現場における課題の把握とその解決に関する調査研究の実施に関連する。
- 社会教育実践研究センターの活動目標【目標1】社会教育事業の実態や課題を把握し、その分析を通じて、望ましい社会教育事業の在り方について調査研究を推進することに合致するものであり、特に家庭教育支援の充実を目指した地域の教育力の活性化促進を図る方策を見出すことにつながるものである。

④今後の研究予定

社会教育実践研究センターが行う講座、研究セミナーや情報提供等の事業の中で調査研究成果の活用を図る。

⑤キーワード

- （1）家庭の教育力 （2）地域の教育力 （3）家庭教育支援
- （4）親子の交流機会 （5）子どもたちの体験活動
- （6）ネットワークづくり （7）学習機会の提供

⑥本研究の研究報告書

家庭教育支援に係る地域の教育力の活性化に関する調査研究報告書

⑦関連する先行研究や参考となる研究等

- 家庭の教育力再生に関する調査研究：文部科学省委託研究 平成13年度